

労働者協同組合法  
成立記念作品

人は人のために働いて  
支え合い、  
人のために死ぬ。  
結局はそれ以上でも  
それ以下でもない。  
これは人間の仕事である。



豊島区池袋上映会 : ワーカーズコープ池袋本部(池袋駅東口より徒歩8分程度)

中村哲は問う——“働く”とは何か、“仕事”とは何か、そして“平和”とは!

4/5(土) ①10:30~ ②14:00~ 各回30分前開場 申込先着50名

参加費: 一人1,000円(障がい者/大学生500円 高校生以下無料)

# 医師中村哲の 仕事・働く というここと

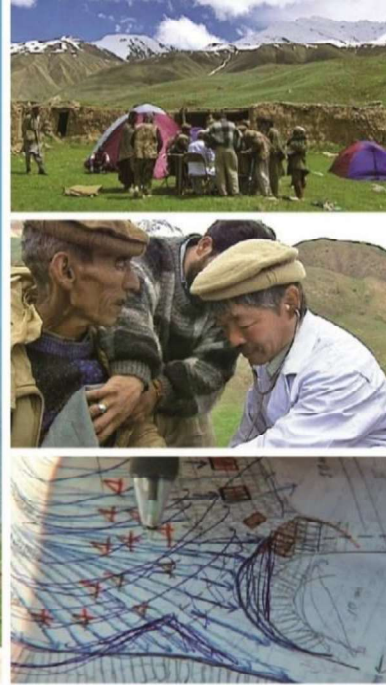
語り◎室井滋 朗読◎塚本晋也

写真・映像提供◎ベンチャーブル会/PM S  
企画・提供◎日本労働者協同組合(ワーカーズコープ)連合会センター事業団  
一般社団法人日本社会連帯機構  
製作◎日本電波ニュース社 HD/16:9/カラー/47分



医師中村哲の  
仕事・働く  
ということ

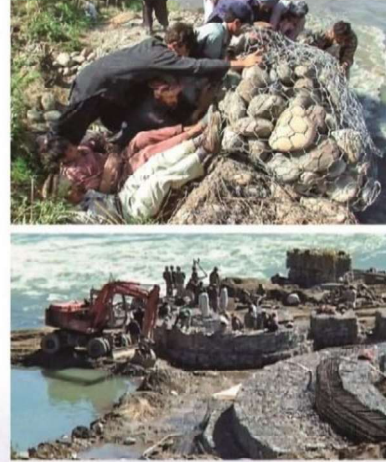
アフガニスタンとパキスタンで、  
病や戦乱、そして干ばつに  
苦しむ人々のために  
35年にわたり  
活動を続けた男がいた。



1984年に医療支援をスタートし、干ばつ対策用の用水路建設、農村復興へと活動を広げた中村哲医師、その歩みは35年に及んだ。中村医師はまず現地の言葉を覚え、現地の人々との対話を通じ、信頼を重ねていく。「私たちに確乎とした援助哲学があるわけではないが唯一譲れぬ一線は「現地の人々の立場に立ち、現地の文化や価値観を尊重し、現地のために働くこと」である」用水路建設では自ら設計図を引き、重機を運転し、泥にまみれて一緒に作業する。その作業には貧しさゆえにタリバンに参加していた農民も参加していた。「己が何のために生きているかと問うことは徒勞である。人は人のために働いて支え合い、人のために死ぬ。



そこに生じる喜怒哀楽に翻弄されながらも、結局はそれ以上でもそれ以下でもない「荒れ果てた大地は蘇り、農作物は実り、65万人の生活を支えている。親子で収穫し、家族で食事をする風景は眩しい。中村医師は言う「これは人間の仕事である」



「長期にわたって中村さんに密着した映像は、中村さんとの信頼の証だ。中村さんは無念の死を遂げたが、この中に生きている。」  
上野千鶴子氏（社会学者、東京大学名誉教授）

日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）はその産声を上げた時から「失業・貧乏・戦争なくせ」をスローガンとして活動してきました。その日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）が中村医師の生き方、働き方に強く共鳴し、21年の歳月をかけて中村医師を記録してきた日本電波ニュース社に依頼し「働くこと」と「仕事観」に焦点を当てて作られたのが本作品です。

4/5(土) ①10:30~ ②14:00~

申込制先着 50名 各回 30分前に開場 池袋駅東口徒歩 8分  
参加費：一人 1,000円（障がい者/大学生 500円、高校生以下無料）  
会場：ワーカーズコープ池袋本部

東池袋 1-44-3 池袋 ISP タマビル 8階

（上映会終了後に感想・質問など懇談会あり）

【申込方法】下記にご記入し FAX(0343324524) もしくは右 QRコード



お名前	希望日時	
お連れ様の名前	年代	ご所属
電話番号	mail	@



FAX(0343324524)もしくはQRコードでの申込みができない方の申込（問）☎09047492705  
主催：ワーカーズコープ・センター事業団池袋本部 WORKERS'COOP（受付時間：平日 10:00~17:00）  
共催：（一社）日本社会連帯機構